

平成28年度 県立学校における「地域と共にある学校づくり」の取組概要

2	ろう学校
---	------

<平成28年度の取組>

	取組名	活動時間	連携先	取組への生徒の関わり方	取組の概要	実施時期	高校生社会参加促進事業
1	熊本震災支援街頭募金活動	④特別活動（生徒会活動）	g. 地元自治会	③ 教職員等が計画を提案し、生徒と一緒に決定した	熊本震災支援ボランティア活動として近鉄筒井駅、JR小泉駅にて街頭募金活動を実施した。筒井地区老人会の方が、事前に募金活動を地域の方々に回覧したり、声をかけてくださったりなどの協力を得て、延べ32名の生徒が意欲的に参加した。たくさん募金を集めることができ、熊本聾学校へ送り届けた。	6月22日・24日	
2	交通安全啓発ストラップ制作	④特別活動（生徒会活動）	g. 地元自治会	③ 教職員等が計画を提案し、生徒と一緒に決定した	地域の方から組みひもを使ったストラップの作り方を学び、中高部生徒全員で制作に取り組み、交通安全啓発のためのメッセージを書いて配布しやすいように袋詰めを行った。	6月22日・7月5日	○
3	地域清掃活動	④特別活動（生徒会活動）	g. 地元自治会	③ 教職員等が計画を提案し、生徒と一緒に決定した	中高部生徒全員がボランティア班に分かれて、学期に1回～2回、通学路周辺のゴミ拾いや、筒井地区老人会の方々の協力を得て学校の近くにある神社の清掃活動を実施したり、学校周辺の清掃活動に取り組んだりした。また、駅周辺の美化活動として地域の方の協力を得て駅前の店先にプランターを設置させていただいた。	5月31日・12月8日 2月13日～28日 3月7日	○
4	筒井順慶まつりへの参加	④特別活動（生徒会活動）	g. 地元自治会	③ 教職員等が計画を提案し、生徒と一緒に決定した	高等部生徒有志により模擬店「わたがし」の出店や、武者行列、会場案内などに参加した。筒井順慶顕彰会や地元筒井地区の自治会の方々の協力を得て、手作りのわたがし屋台で積極的にコミュニケーションを交わして接客したり地域のぬくもりやつながりを体感した。	9月11日	○
5	ひびき祭地域交流（昔遊び体験・もちつき体験・マジックショー）	④特別活動（生徒会活動） ⑤特別活動（学校行事）	g. 地元自治会	③ 教職員等が計画を提案し、生徒と一緒に決定した	「笑顔満祭－最高の仲間とはばだけ青春－」をテーマに2年ぶりに開催したひびき祭では、幼稚部から高等部までの縦割班で活動したり、筒井地区老人会の方々を講師に招いて、昔あそび体験やもちつき体験を実施したりした。またプロのろうマジシャンによるマジックショーを開催し、地域の方々と鑑賞会を実施し、地域とのつながりや交流を深めることができた。	10月21日	○
6	あいさつ強調月間	④特別活動（生徒会活動）	g. 地元自治会	③ 教職員等が計画を提案し、生徒と一緒に決定した	筒井地区老人会の方と一緒に近鉄筒井駅、JR小泉駅で早朝にあいさつ運動を実施した。最初はどうか声をしたらよいのか戸惑ったり、恥ずかしがったりしていた生徒たちも、行き交う人たちにあいさつを返してもらって、ストラップを配布して活動の大切さを実感することができた。	1月12日・13日	
7	学校間交流（小学部・中学部・高等部）	①各教科の授業 ②総合的な学習の時間 ③特別活動（ホームルーム活動）	小学校・中学校・高校		小学部は片桐小学校、中学部は高田中学校、奈良女子大附属中等教育学校、高等部は登美ヶ丘高校、奈良朱雀高校、奈良西養護学校と授業交流や行事交流を行い、聞こえない子どもと聞こえる子どもが共同で学習したりいろいろな活動を体験したりする機会を設け、継続的に交流を実施している。	各学期	
8	居住地交流	①各教科の授業 ②総合的な学習の時間 ③特別活動（ホームルーム活動）	小学校	⑤ 教職員等が計画を決定した	小学部の児童の約8割は自分の居住している校区の小学校と居住地交流をしている。基本は学期に1回、年2～3回で授業交流や行事交流を行い、自分の居住地の近隣に住む子どもたちとの関係を深めている。また、これまで交流してきた学校以外にも手紙や作文などで学校紹介をするなど交流の輪が広がりつつある。	各学期	
9	センター的役割	地域交流	幼稚園・小学校・中学校・高校	⑤ 教職員等が計画を決定した	県内の聴覚障害児教育のセンターとして保育所、幼稚園、小学校、中学校、高校などに通う聴覚障害幼児児童生徒たちの教育相談や補聴相談を受け付けている。またそれらの子どもの担当者に対する研修や情報交換、各校への研修会への講師派遣、心理カウンセラーの派遣などにも取り組んでいる。	通年	